



SMBクライアントベースのサービスを導入する

ONTAP 9

NetApp
December 20, 2024

目次

SMBクライアントベースのサービスを導入する	1
オフラインファイルを使用してオフラインで使用するファイルをキャッシュできるようにする	1
移動プロファイルを使用して、SVMに関連付けられた SMBサーバにユーザプロファイルを一元的に格納する	7
フォルダリダイレクトを使用してSMBサーバにデータを格納する	9
SMB 2.xを使用してWindowsクライアントから~snapshotディレクトリにアクセスする	10
以前のバージョン機能を使用したファイルとフォルダのリカバリ	11

SMBクライアントベースのサービスを導入する

オフラインファイルを使用してオフラインで使用するファイルをキャッシュできるようにする

オフラインファイルを使用してオフラインで使用するファイルのキャッシュを許可する概要

ONTAP では、Microsoft のオフラインファイル機能（_クライアント側キャッシュ_）をサポートしています。これにより、オフラインで使用するファイルをローカルホストにキャッシュできます。オフラインファイル機能を使用すると、ネットワークから切断されていてもファイルの処理を継続できます。

Windowsのユーザドキュメントやプログラムを共有に自動的にキャッシュするかどうか、またはキャッシュするファイルを手動で選択する必要があるかどうかを指定できます。新しい共有では手動キャッシュがデフォルトで有効になります。オフラインで使用可能になったファイルは、Windowsクライアントのローカルディスクと同期されます。同期は、特定のストレージシステム共有へのネットワーク接続がリストアされたときに実行されます。

オフラインのファイルやフォルダへのアクセス権は、CIFSサーバに保存されているファイルやフォルダと同じになるため、オフラインのファイルやフォルダに対して操作を実行するには、CIFSサーバに保存されているファイルやフォルダに対する十分な権限がユーザに必要です。

ユーザとネットワーク上の他のユーザが同じファイルに変更を加えた場合、ユーザはファイルのローカルバージョンをネットワークに保存するか、他のバージョンを保持するか、またはその両方を保存できます。ユーザが両方のバージョンを保持している場合、ローカルユーザの変更を含む新しいファイルがローカルに保存され、キャッシュされたファイルはCIFSサーバに保存されているバージョンの変更で上書きされます。

共有ごとにオフラインファイルを設定するには、共有設定を使用します。共有を作成または変更するときに、次の4つのオフラインフォルダ設定のいずれかを選択できます。

- キャッシュなし

共有のクライアント側キャッシュを無効にします。クライアントのローカルにファイルやフォルダが自動的にキャッシュされず、ユーザがファイルやフォルダをローカルにキャッシュすることもできません。

- 手動キャッシュ

共有にキャッシュするファイルを手動で選択できるようにします。これがデフォルト設定です。デフォルトでは、ファイルやフォルダはローカルクライアントにキャッシュされません。オフラインで使用するためにローカルにキャッシュするファイルやフォルダをユーザが選択できます。

- ドキュメントの自動キャッシュ

ユーザのドキュメントが共有に自動的にキャッシュされるようにします。ローカルにキャッシュされるのは、アクセスしたファイルとフォルダだけです。

- プログラムの自動キャッシュ

プログラムとユーザのドキュメントを共有に自動的にキャッシュできるようにします。ローカルにキャッ

シュされるのは、アクセスしたファイル、フォルダ、およびプログラムだけです。さらに、この設定により、クライアントはネットワークに接続されている場合でも、ローカルにキャッシュされた実行可能ファイルを実行できます。

Windowsサーバおよびクライアントでのオフラインファイルの設定の詳細については、Microsoft TechNetライブラリを参照してください。

関連情報

[移動プロファイルを使用したSVMに関連付けられたCIFSサーバへのユーザプロファイルの一元的な格納](#)

[フォルダリダイレクトを使用したCIFSサーバへのデータの格納](#)

[BranchCacheを使用したブランチオフィスでのSMB共有のコンテンツのキャッシュ](#)

["Microsoft TechNetライブラリ : \[technet.microsoft.com/en-us/library/\]\(http://technet.microsoft.com/en-us/library/\)"](#)

オフラインファイルを使用するための要件

CIFS サーバで Microsoft のオフラインファイル機能を使用する前に、この機能をサポートする ONTAP および SMB のバージョンと Windows クライアントの種類について確認しておく必要があります。

ONTAPのバージョンの要件

ONTAP の各リリースでオフラインファイルがサポートされます。

SMBプロトコルのバージョン

Storage Virtual Machine (SVM ONTAP) については、すべてのバージョンの SMB でオフラインファイルがサポートされます。

Windowsクライアントの要件

Windows クライアントでオフラインファイルがサポートされている必要があります。

オフラインファイル機能をサポートする Windows クライアントに関する最新情報については、Interoperability Matrix を参照してください。

["mysupport.netapp.com/matrix"](#)

オフラインファイルの導入に関するガイドライン

ホームディレクトリに共有プロパティが設定されているホームディレクトリ共有にオフラインファイルを導入する場合は、いくつかの重要なガイドラインについて理解しておく必要があります。`showsnapshot` ます。

オフラインファイルが設定されているホームディレクトリ共有で共有プロパティが設定されている場合、`showsnapshot` WindowsクライアントはすべてのSnapshotコピーをユーザのホームディレクトリ内のフォルダの下にキャッシュします `~snapshot`。

次のいずれかに該当する場合、Windows クライアントでは、すべての Snapshot コピーがホームディレクトリの下にキャッシュされます。

- ユーザが、ホームディレクトリをクライアントからオフラインで利用できるようにしている。

ホームディレクトリ内のフォルダの内容 `~snapshot` も含まれ、オフラインで使用できるようになります。

- ユーザが、などのフォルダをCIFSサーバ共有にあるホームディレクトリのルートにリダイレクトするようにフォルダリダイレクトを設定している My Documents。

Windows クライアントによっては、リダイレクトされたフォルダが自動的にオフラインで利用できるようになる場合があります。フォルダがホームディレクトリのルートにリダイレクトされる場合、その `~snapshot` フォルダはキャッシュされたオフラインコンテンツに含まれます。



フォルダがオフラインファイルに含まれているオフラインファイルの展開 `~snapshot` は避ける必要があります。フォルダ内の Snapshot コピー `~snapshot` には、ONTAP が Snapshot コピーを作成した時点のボリューム上のすべてのデータが含まれています。そのため、フォルダのオフラインコピーを作成すると `~snapshot`、クライアントのローカルストレージが大量に消費され、オフラインファイルの同期中にネットワーク帯域幅が消費され、オフラインファイルの同期にかかる時間が長くなります。

CLIを使用したSMB共有でのオフラインファイルサポートの設定

ONTAP CLIを使用してオフラインファイルのサポートを設定するには、SMB共有の作成時に、または既存のSMB共有の変更時にいつでも、4つのオフラインファイル設定のいずれかを指定します。デフォルトの設定は、オフラインファイルの手動サポートです。

タスクの内容

オフラインファイルのサポートを設定する場合は、次の4つのオフラインファイル設定のいずれかを選択できます。

設定	説明
none	Windowsクライアントがこの共有のファイルをキャッシュすることを禁止します。
manual	Windowsクライアントのユーザが、キャッシュするファイルを手動で選択できるようにします。
documents	Windowsクライアントがオフラインアクセスのために使用するユーザドキュメントをキャッシュすることを許可します。
programs	Windowsクライアントがオフラインアクセスのために使用するプログラムをキャッシュすることを許可します。クライアントは、共有が使用可能な場合でも、キャッシュされたプログラムファイルをオフラインモードで使用できます。

選択できるオフラインファイル設定は1つだけです。既存のSMB共有でオフラインファイル設定を変更すると、元の設定が新しいオフラインファイル設定に置き換えられます。その他の既存のSMB共有設定および共有プロパティは削除も置き換えもされません。これらは、明示的に削除または変更されるまで有効です。

手順

1. 適切な操作を実行します。

オフラインファイルを設定する対象	入力するコマンド
新しいSMB共有	<code>`vserver cifs share create -vserver vserver_name -share-name share_name -path path -offline-files {none</code>
manual	documents
programs}`	既存のSMB共有
<code>`vserver cifs share modify -vserver vserver_name -share-name share_name -offline-files {none</code>	manual
documents	programs}`

2. SMB共有の設定が正しいことを確認します。 `vserver cifs share show -vserver vserver_name -share-name share_name -instance`

例

次のコマンドは、オフラインファイルをに設定して「data1」という名前のSMB共有を作成します documents。

```
cluster1::> vserver cifs share create -vserver vs1 -share-name data1 -path
/data1 -comment "Offline files" -offline-files documents

cluster1::> vserver cifs share show -vserver vs1 -share-name data1
-instance

                Vserver: vs1
                Share: data1
CIFS Server NetBIOS Name: VS1
                Path: /data1
                Share Properties: oplocks
                                browsable
                                changenotify
                Symlink Properties: enable
                File Mode Creation Mask: -
                Directory Mode Creation Mask: -
                Share Comment: Offline files
                Share ACL: Everyone / Full Control
                File Attribute Cache Lifetime: -
                Volume Name: -
                Offline Files: documents
                Vscan File-Operations Profile: standard
                Maximum Tree Connections on Share: 4294967295
                UNIX Group for File Create: -
```

次のコマンドは、オフラインファイルの設定をに変更し、ファイルモードおよびディレクトリモードの作成マスクの値を追加することで、「data1」という名前の既存のSMB共有を変更します。 manual

```
cluster1::> vsserver cifs share modify -vsserver vs1 -share-name data1
-offline-files manual -file-umask 644 -dir-umask 777

cluster1::> vsserver cifs share show -vsserver vs1 -share-name data1
-instance

                Vserver: vs1
                Share: data1
CIFS Server NetBIOS Name: VS1
                Path: /data1
                Share Properties: oplocks
                                browsable
                                changenotify
                Symlink Properties: enable
                File Mode Creation Mask: 644
Directory Mode Creation Mask: 777
                Share Comment: Offline files
                Share ACL: Everyone / Full Control
File Attribute Cache Lifetime: -
                Volume Name: -
                Offline Files: manual
Vscan File-Operations Profile: standard
Maximum Tree Connections on Share: 4294967295
                UNIX Group for File Create: -
```

関連情報

[既存のSMB共有に対する共有プロパティの追加または削除](#)

コンピュータの管理MMCを使用したSMB共有でのオフラインファイルサポートの設定

オフラインで使用するためにファイルをローカルにキャッシュすることをユーザに許可する場合は、コンピュータの管理 MMC（Microsoft 管理コンソール）を使用してオフラインファイルのサポートを設定できます。

手順

1. Windows サーバー上の MMC を開くには、Windows エクスプローラで、ローカルコンピュータのアイコンを右クリックし、* 管理 * を選択します。
2. 左側のパネルで、「* コンピュータの管理 *」を選択します。
3. 「* アクション * > * 別のコンピュータに接続 *」を選択します。

[コンピュータの選択] ダイアログボックスが表示されます。

4. CIFS サーバの名前を入力するか、* Browse * をクリックして CIFS サーバを指定します。

CIFSサーバの名前がStorage Virtual Machine (SVM) ホスト名と同じ場合は、SVM名を入力しま

す。CIFS サーバの名前が SVM ホスト名と異なる場合は、CIFS サーバの名前を入力します。

5. [OK]*をクリックします。
6. コンソールツリーで、*システムツール*>*共有フォルダー*をクリックします。
7. [*共有]をクリックします。
8. 結果ペインで、共有を右クリックします。
9. *プロパティ*をクリックします。

選択した共有のプロパティが表示されます。

10. [一般*]タブで、[*オフライン設定*]をクリックします。

[オフライン設定]ダイアログボックスが表示されます。

11. 必要に応じて、オフラインの可用性オプションを設定します。
12. [OK]*をクリックします。

移動プロファイルを使用して、SVMに関連付けられたSMBサーバにユーザプロファイルを一元的に格納する

移動プロファイルを使用して、SVMの概要に関連付けられたSMBサーバにユーザプロファイルを一元的に格納する

ONTAPでは、Windowsの移動プロファイルの格納をサポートしており、Storage Virtual Machine (SVM) に関連付けられたCIFSサーバに格納できます。ユーザ移動プロファイルを設定すると、ユーザはどこでログインしても自動でリソースを利用できるようになります。また、ユーザプロファイルの管理が簡単になり、管理者にとってもメリットがあります。

移動ユーザプロファイルには、次の利点があります。

- 自動でリソースを利用できる

ユーザーがWindows 8、Windows 7、Windows 2000、またはWindows XPを実行しているネットワーク上のコンピュータにログインすると、ユーザーの一意的プロファイルが自動的に使用可能になります。ユーザは、ネットワーク上で使用する各コンピュータでプロファイルを作成する必要はありません。

- コンピュータの交換が簡単

ユーザのプロファイル情報はすべてネットワーク上で個別に管理されるため、ユーザのプロファイルは新しい交換用コンピュータに簡単にダウンロードできます。ユーザが新しいコンピュータに初めてログインしたときに、サーバに保存されているユーザのプロファイルが新しいコンピュータにコピーされます。

関連情報

[オフラインファイルを使用したオフラインで使用するファイルのキャッシュ](#)

[フォルダリダイレクトを使用したCIFSサーバへのデータの格納](#)

移動プロファイルを使用するための要件

CIFSサーバでMicrosoftの移動プロファイルを使用する前に、この機能をサポートするONTAPおよびSMBのバージョンとWindowsクライアントの種類について確認しておく必要があります。

ONTAPのバージョンの要件

ONTAPでは、移動プロファイルがサポートされます。

SMBプロトコルのバージョン

Storage Virtual Machine (SVM) についてはONTAP、すべてのバージョンのSMBで移動プロファイルがサポートされます。

Windowsクライアントの要件

移動プロファイルを使用するには、Windowsクライアントでこの機能がサポートされている必要があります。

移動プロファイルをサポートするWindowsクライアントに関する最新情報については、Interoperability Matrixを参照してください。

["NetApp Interoperability Matrix Tool"](#)

移動プロファイルの設定

ユーザがネットワーク上の任意のコンピュータにログオンしたときにそのユーザのプロファイルを自動的に使用可能にするには、[Active Directoryユーザーとコンピュータ]MMCスナップインで移動プロファイルを設定します。Windows Serverで移動プロファイルを設定する場合は、Active Directory管理センターを使用します。

手順

1. Windowsサーバーで、Active DirectoryユーザーとコンピュータMMC（またはWindowsサーバーのActive Directory管理センター）を開きます。
2. 移動プロファイルを設定するユーザを見つけます。
3. ユーザーを右クリックし、* プロパティ * をクリックします。
4. [プロファイル]*タブで、ユーザの移動プロファイルを保存する共有のプロファイルパスを入力し、続けてを入力します %username%。

たとえば、プロファイルパスは次のようになります \\vs1.example.com\profiles\%username%。ユーザが初めてログインすると、`%username%`はそのユーザの名前に置き換えられます。



パスの \\vs1.example.com\profiles\%username% `profiles` は、すべてのメンバーにフルコントロール権限が割り当てられているStorage Virtual Machine (SVM) vs1上の共有の共有名です。

5. [OK]*をクリックします。

フォルダリダイレクトを使用してSMBサーバにデータを格納する

フォルダリダイレクトを使用したSMBサーバへのデータの格納の概要

ONTAPでは、Microsoftのフォルダリダイレクトがサポートされています。ユーザや管理者は、この機能を使用して、ローカルフォルダのパスをCIFSサーバ上の場所にリダイレクトできます。リダイレクトされたフォルダは、データがSMB共有に格納されていても、ローカルのWindowsクライアントに格納されているように見えます。

フォルダリダイレクトは、主に、ホームディレクトリをすでに導入していて、既存のホームディレクトリ環境との互換性を維持したい組織を対象としています。

- Documents、Desktop、および `Start Menu` は、リダイレクト可能なフォルダの例です。
- ユーザはWindowsクライアントからフォルダをリダイレクトできます。
- 管理者は、Active DirectoryでGPOを設定することで、フォルダリダイレクトを一元的に設定および管理できます。
- 管理者が移動プロファイルを設定している場合、フォルダリダイレクトを使用すると、管理者はユーザデータをプロファイルデータから分割できます。
- フォルダリダイレクトとオフラインファイルを使用して、ユーザがコンテンツをローカルにキャッシュしながら、ローカルフォルダのデータストレージをCIFSサーバにリダイレクトできます。

関連情報

[オフラインファイルを使用したオフラインで使用するファイルのキャッシュ](#)

[移動プロファイルを使用したSVMに関連付けられたCIFSサーバへのユーザプロファイルの一元的な格納](#)

フォルダリダイレクトを使用するための要件

CIFS サーバで Microsoft のフォルダリダイレクトを使用する前に、この機能をサポートする ONTAP および SMB のバージョンと Windows クライアントの種類について確認しておく必要があります。

ONTAPのバージョンの要件

ONTAP は、Microsoft のフォルダリダイレクトをサポートしています

SMBプロトコルのバージョン

Storage Virtual Machine (SVM) については、ONTAP のすべてのバージョンの SMB で Microsoft のフォルダリダイレクトがサポートされます。

Windowsクライアントの要件

Microsoft のフォルダリダイレクトを使用するには、Windows クライアントでこの機能がサポートされている必要があります。

フォルダリダイレクトをサポートする Windows クライアントに関する最新情報については、Interoperability Matrix を参照してください。

["mysupport.netapp.com/matrix"](https://mysupport.netapp.com/matrix)

フォルダリダイレクトの設定

Windowsの[プロパティ]ウィンドウを使用して、フォルダリダイレクトを設定できます。この方法を使用する利点は、WindowsユーザがSVM管理者の支援なしでフォルダリダイレクトを設定できることです。

手順

1. エクスプローラで、ネットワーク共有にリダイレクトするフォルダを右クリックします。
2. * プロパティ * をクリックします。

選択した共有のプロパティが表示されます。

3. [* ショートカット *] タブで、[* ターゲット *] をクリックし、選択したフォルダーをリダイレクトするネットワーク上の場所へのパスを指定します。

たとえば、にマッピングされているホームディレクトリ内のフォルダ Q:\ にフォルダをリダイレクトする場合 `data` は、をターゲットとして指定します `Q:\data`。

4. [OK]* をクリックします。

オフラインフォルダの設定の詳細については、Microsoft TechNet ライブラリを参照してください。

関連情報

["Microsoft TechNet ライブラリ : technet.microsoft.com/en-us/library/"](https://technet.microsoft.com/en-us/library/)

SMB 2.x を使用して Windows クライアントから ~snapshot ディレクトリにアクセスする

SMB 2.x を使用する Windows クライアントからのディレクトリへのアクセスに使用する方法 `~snapshot` は、SMB 1.0 の場合とは異なります。SMB 2.x 接続を使用して Snapshot コピーに格納されたデータに正常にアクセスするためのディレクトリへのアクセス方法について理解しておく必要があります `~snapshot` ます。

SVM 管理者は、vserver cifs share properties ファミリーのコマンドを使用して共有プロパティを有効または無効にすることで、Windows クライアントのユーザが共有のディレクトリを表示してアクセスできるかどうかを制御します `~snapshot`。 showsnapshot

共有プロパティが無効になっている場合、 showsnapshot `SMB 2.x` を使用する Windows クライアントのユーザは、ディレクトリのパスまたはディレクトリ内の特定の Snapshot コピーのパスを手動で入力しても、`~snapshot` ディレクトリを表示できず、ディレクトリ内の Snapshot コピーにアクセスできません `~snapshot` `ん` `~snapshot`。

共有プロパティが有効になっている場合 showsnapshot `でも、SMB 2.x` を使用する Windows クライアント

のユーザは、共有のルートにあるディレクトリ、または共有のルートより下のジャンクションまたはディレクトリ内のディレクトリを表示できません `~snapshot`。ただし、共有に接続したユーザは、共有パスの末尾にを手動で追加することで、非表示のディレクトリに `~snapshot` アクセスできます `~snapshot`。非表示の `~snapshot` ディレクトリには、次の2つのエントリポイントからアクセスできます。

- 共有のルート
- 共有スペースのすべてのジャンクションポイント

非表示の `~snapshot` ディレクトリには、共有内のジャンクション以外のサブディレクトリからはアクセスできません。

例

次の例に示す設定では、「eng」共有へのSMB 2.x接続を使用するWindowsクライアントのユーザが、共有パス（共有のルートおよびパス内のすべてのジャンクションポイント）に手動でを追加することで、ディレクトリにアクセスできます `~snapshot`。 `~snapshot` 非表示の `~snapshot` ディレクトリには、次の3つのパスからアクセスできます。

- `\\vs1\eng\~snapshot`
- `\\vs1\eng\projects1\~snapshot`
- `\\vs1\eng\projects2\~snapshot`

```
cluster1::> volume show -vserver vs1 -fields volume,junction-path
vserver volume          junction-path
-----
vs1      vs1_root              /
vs1      vs1_vol1              /eng
vs1      vs1_vol2              /eng/projects1
vs1      vs1_vol3              /eng/projects2

cluster1::> vsserver cifs share show
Vserver  Share  Path      Properties      Comment  ACL
-----
vs1      eng    /eng      oplocks         -        Everyone / Full Control
          changenotify
          browsable
          showsnapshot
```

以前のバージョン機能を使用したファイルとフォルダのリカバリ

[以前のバージョン]機能を使用したファイルとフォルダのリカバリの概要

Microsoft の以前のバージョン機能は、Snapshot コピーを何らかの形でサポートしているファイルシステムで、それらが有効になっている場合に使用できます。Snapshot テクノロジは ONTAP に不可欠なテクノロジーの1つです。ユーザは、Windows クライアント

で Microsoft の以前のバージョン機能を使用して、Snapshot コピーからファイルとフォルダをリカバリできます。

以前のバージョン機能を使用すると、ストレージ管理者の手を借りなくても、一連の Snapshot コピーを参照したり、Snapshot コピーからデータをリストアしたりできます。以前のバージョン機能は設定できません。常に有効になります。ストレージ管理者が Snapshot コピーを共有で使用できるようにした場合、ユーザは以前のバージョン機能を使用して次の作業を実行できます。

- 誤って削除したファイルをリカバリする。
- 誤って上書きしたファイルをリカバリする。
- 作業中にファイルのバージョンを比較します。

Snapshot コピーに格納されているデータは読み取り専用です。ファイルに変更を加えるには、ファイルのコピーを別の場所に保存する必要があります。Snapshot コピーは定期的に削除されるため、以前のバージョンのファイルを残しておく場合は、以前のバージョン機能で格納されたファイルのコピーを作成しておく必要があります。

Microsoftの以前のバージョン機能を使用するための要件

CIFSサーバで[以前のバージョン]機能を使用する前に、この機能をサポートするONTAPおよびSMBのバージョンとWindowsクライアントの種類について確認しておく必要があります。また、Snapshotコピー設定の要件についても理解しておく必要があります。

ONTAPのバージョンの要件

以前のバージョンをサポートします。

SMBプロトコルのバージョン

Storage Virtual Machine (SVM) についてはONTAP、すべてのバージョンのSMBで[以前のバージョン]機能がサポートされます。

Windowsクライアントの要件

[以前のバージョン]機能を使用してSnapshotコピーのデータにアクセスするには、Windowsクライアントでこの機能がサポートされている必要があります。

[以前のバージョン]機能をサポートするWindowsクライアントに関する最新情報については、Interoperability Matrixを参照してください。

["NetApp Interoperability Matrix Tool"](#)

Snapshotコピーの設定の要件

[以前のバージョン]機能を使用してSnapshotコピーのデータにアクセスするには、有効なSnapshotポリシーがデータを含むボリュームに関連付けられ、クライアントがSnapshotデータにアクセスできること、およびSnapshotコピーが存在していることが必要です。

[以前のバージョン]タブを使用してSnapshotコピーデータを表示および管理

Windowsクライアントマシンでは、Windowsの[プロパティ]ウィンドウの[以前のバージョン]タブを使用して、Storage Virtual Machine (SVM) 管理者の手を借りなくても、Snapshotコピーに格納されたデータをユーザがリストアできます。

タスクの内容

SVMに格納されたSnapshotコピーのデータを[以前のバージョン]タブで表示および管理できるのは、管理者が共有を含むボリュームでSnapshotコピーを有効にし、Snapshotコピーを表示するように共有を設定している場合のみです。

手順

1. エクスプローラで、CIFSサーバに格納されているデータのマッピングされたドライブの内容を表示します。
2. Snapshotコピーを表示または管理するマッピングされたネットワークドライブ内のファイルまたはフォルダを右クリックします。
3. * プロパティ * をクリックします。

選択したファイルまたはフォルダのプロパティが表示されます。

4. [以前のバージョン *] タブをクリックします。

選択したファイルまたはフォルダの使用可能なSnapshotコピーのリストが、[Folder Versions]ボックスに表示されます。表示されたSnapshotコピーは、Snapshotコピー名のプレフィックスと作成時のタイムスタンプで識別されます。

5. [* フォルダーバージョン : *] ボックスで、管理するファイルまたはフォルダのコピーを右クリックします。
6. 適切な操作を実行します。

状況	操作
Snapshotコピーのデータを表示する	• 開く * をクリックします。
そのSnapshotコピーのデータのコピーを作成する	[* コピー (Copy)] をクリックします

Snapshotコピーのデータは読み取り専用です。[以前のバージョン]タブに表示されているファイルやフォルダに変更を加える場合は、変更するファイルやフォルダのコピーを書き込み可能な場所に保存し、コピーに変更を加える必要があります。

7. スナップショット・データの管理が終了したら **OK** をクリックして * プロパティ * ダイアログ・ボックスを閉じます

[以前のバージョン]タブを使用したSnapshotデータの表示と管理の詳細については、Microsoft TechNetライブラリを参照してください。

関連情報

"Microsoft TechNetライブラリ : technet.microsoft.com/en-us/library/"

以前のバージョン機能でSnapshotコピーを使用できるかどうかの確認

[以前のバージョン]タブからSnapshotコピーを表示できるのは、共有を含むボリュームに有効なSnapshotポリシーが適用されていて、ボリューム設定でSnapshotコピーへのアクセスが許可されている場合のみです。Snapshotコピーを使用できるかどうかを確認すると、ユーザが[以前のバージョン]機能にアクセスできるかどうかを確認するときに役立ちます。

手順

1. 共有データが存在するボリュームで自動Snapshotコピーが有効になっているかどうか、およびクライアントがSnapshotディレクトリにアクセスできるかどうかを確認します。
`volume show -vserver vserver-name -volume volume-name -fields vserver,volume,snapdir-access,snapshot-policy,snapshot-count`

出力には、ボリュームに関連付けられているSnapshotポリシー、クライアントのSnapshotディレクトリアクセスが有効かどうか、および使用可能なSnapshotコピーの数が表示されます。

2. 関連付けられているSnapshotポリシーが有効になっているかどうかを確認します。
`volume snapshot policy show -policy policy-name`
3. 使用可能なSnapshotコピーの一覧を表示します。
`volume snapshot show -volume volume_name`

SnapshotポリシーとSnapshotスケジュールの設定と管理の詳細については、を参照してください"[データ保護](#)"。

例

次の例は、「data」上の共有データと使用可能なSnapshotコピーを含む「data」という名前のボリュームに関連付けられているSnapshotポリシーに関する情報を表示します。


```

cluster1::> volume show -vserver vs1 -volume data1 -fields
vserver,volume,snapshot-policy,snapdir-access,snapshot-count
vserver  volume snapdir-access snapshot-policy snapshot-count
-----
vs1      data1  true          default       10

cluster1::> volume snapshot policy show -policy default
Vserver: cluster1

          Number of Is
Policy Name Schedules Enabled Comment
-----
default          3 true  Default policy with hourly, daily &
weekly schedules.
  Schedule      Count      Prefix      SnapMirror Label
  -----
  hourly         6      hourly      -
  daily          2      daily       daily
  weekly         2      weekly      weekly

cluster1::> volume snapshot show -volume data1

          ---Blocks---
Vserver  Volume  Snapshot          State      Size Total% Used%
-----
vs1      data1
        weekly.2012-12-16_0015  valid      408KB    0%    1%
        daily.2012-12-22_0010   valid      420KB    0%    1%
        daily.2012-12-23_0010   valid      192KB    0%    0%
        weekly.2012-12-23_0015  valid      360KB    0%    1%
        hourly.2012-12-23_1405  valid      196KB    0%    0%
        hourly.2012-12-23_1505  valid      196KB    0%    0%
        hourly.2012-12-23_1605  valid      212KB    0%    0%
        hourly.2012-12-23_1705  valid      136KB    0%    0%
        hourly.2012-12-23_1805  valid      200KB    0%    0%
        hourly.2012-12-23_1905  valid      184KB    0%    0%

```

関連情報

[以前のバージョン機能のアクセスを有効にするSnapshot設定の作成](#)

"データ保護"

Snapshot設定を作成して以前のバージョン機能のアクセスを有効にする

Snapshotコピーへのクライアントアクセスが有効で、Snapshotコピーが存在する場合は、[以前のバージョン]機能をいつでも使用できます。Snapshotコピーの設定がこれらの要件を満たしていない場合は、要件を満たすSnapshotコピーの設定を作成できます。

手順

1. 以前のバージョン機能からのアクセスを許可する共有が含まれているボリュームにSnapshotポリシーが関連付けられていない場合は、コマンドを使用して、Snapshotポリシーをボリュームに関連付けて有効にします `volume modify`。

コマンドの使用の詳細については `volume modify`、マニュアルページを参照してください。

2. コマンドを使用してオプションをに `'true'` 設定し、`'-snap-dir'` Snapshotコピーへのアクセスを有効にし `'volume modify'` ます。

コマンドの使用の詳細については `volume modify`、マニュアルページを参照してください。

3. コマンドと `volume snapshot policy show` コマンドを使用して、Snapshotポリシーが有効になっていること、およびSnapshotディレクトリへのアクセスが有効になっていることを確認します `'volume show`。

コマンドと `volume snapshot policy show` コマンドの使用の詳細については `'volume show`、マニュアルページを参照してください。

SnapshotポリシーとSnapshotスケジュールの設定と管理の詳細については、を参照してください"[データ保護](#)"。

関連情報

["データ保護"](#)

ジャンクションを含むディレクトリのリストアに関するガイドライン

以前のバージョン機能を使用してジャンクションポイントを含むフォルダをリストアする場合は、一定のガイドラインに注意する必要があります。

以前のバージョンを使用して、ジャンクションポイントである子フォルダを含むフォルダをリストアすると、リストアがエラーで失敗することがあります `Access Denied`。

リストアしようとしているフォルダにジャンクションが含まれているかどうかを確認するには、`vol show` コマンドでオプションを指定し `'-parent'` ます。コマンドを使用して、ファイルやフォルダのアクセスに関する問題に関する詳細なログを作成することもできます `'vserver security trace`。

関連情報

[NASネームスペースでのデータボリュームの作成と管理](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。